



414
A 468



印書ノ用當ニ政府各部ノ煩ヲ除クノミナラズ
 外ハ耳目ヲ関キ内ハ心思ヲ明ニシ上ハ官利ト
 ナリ下ハ民益トナル素ヨリ臣ノ絮言ヲ待タザ
 ル所ナリ蓋廟堂ノ見己ニ此ニ及ベルヲ以テ本
 院印書局ノ設マリ雖然政府ヨリ資本ヲ給セザ
 ルニ由リ一局ノ規模未立シテ印書ノ用ヲ辨ズ
 ルニ足ラズ今政府ノ用度太多端ニシテ或ハ悉
 ク之ヲ給スルヲ能ハズ宜ク一種ノ良法ヲ設ケ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



テ以テ其目的ヲ達ス可シ夫レ歐米各國ニ於ル
政府ノ助力ヲ以テ上下一般ノ公益ヲ成スア
リ臣ノ目撃スル所ニ據レバ甚尋常ノ事ニシテ
少シモ奇トスルニ足ラズ現在太平洋飛脚會
社米國各地ノ鐵道會社及ビ諸處ノ學校等皆此
法ニテ成リ立ツ者ナリ太平洋飛脚會社ハ創
業ノ始ニ方テ政府ヨリ五拾萬弗ヲ與ヘ各地ノ
鐵道ハ各地ノ官地ヲ與ヘ之ヲ資本トシテ金ヲ

募ラシム學校ニ於モ亦然リ之ヲ「フアント」元金
ト稱ス此類ノ事ヲ總稱シテ「コーポレーション」義
ブレデー」政府補助ノ義ト云フ如此政府ヨリ補助スル
ハ上下一般其利ヲ享ル者タル所以ニシテ猶政
府ト人民ト一種ノ會社ノ契約ヲ成シタル者ノ
如シ政府ハ此力ニ由テ其用ヲ辨シ加フルニ年
賦ヲ以テ嘗テ給與セル補助金ヲ返サシム現今
太平洋飛脚會社ノ如キハ一航海ゴトニ五千

弗宛ヲ米國ノ政府ニ納ムル即是ナリ

右「レ」シ「レ」ブ「レ」デ「レ」ルノ法ヲ當局ニ參用スル方法左ノ如シ

第一條

初五箇年間毎年三萬圓宛ヲ資本金トシテ給セラルベシ

第二條

初五箇年間官負ノ月給ト外國人ノ雇料トヲ給

セラルベシ

第三條

當局ノ地ヲ永代無税ニテ印書局ニ貸シ與ヘラルベシ

第四條

第六箇年目ヨリ政府ノ資本金ヲ十年賦ニ返納スベシ

第五條

政府公布ノ印行ハ永代元價ヲ以テ之ヲ辦ズベシ

第六條

政府公布ノ印行ト雖氏販賣ノ分ハ專ラ當局ニ任ゼラルベシ

上ノ條款ニ掲クル所ヲ允シ且同上ノ資本ヲ給シテ人民ノ望ヲ掛テバ臣請フ有資ノ人民ヲ募リ以テ資本ノ不足ヲ補ヒ宇内ノ精器ヲ贖ヒ印

書ノ用ヲ擴張セン政府素ヨリ其利ヲ失ハズシテ人民モ亦永ク其賜ヲ享シ今彼ノ軍艦ヲ蓄ヘ砲臺ヲ築キ或ハ諸鎮ニ配兵スルノ類ノ如キハ治世一モ其利ヲ見ズ猶且政府鉅萬ノ金ヲ費スニ至ル印書ハ則否ラズ治世一日モ闕クベカラズ有事ノ日ニ當テハ尤モ無カルベカラザルノ具ニシテ而政府ノ金ハ一タビ出テ、復返ル具利如此否ラザレバ現今本局消費スル金額モ亦

徒ニ冗費トナラシ故ニ資本ヲ給スル上下ノ利
隨テ大資本ヲ給セザル上下ノ利隨テ小額ヲハ
彼此ノ得失利害ヲ考察セラレ上ニ陳述スル所
ノ條歟至急御許可相成度此段相伺候也

明治六年一月

細川二等議官